

【中学年の研究について】

5回の研究授業をしてきた。

（成果）

- ・事前読み・・・資料の理解，役割演技もしてきた。
- ・書く活動・・・ワークシート，考えが明確になった。

（課題）

- ・意見の交流の場面で，友達との意見との違いにどのように気づくか。
- ・事前読みで出た感想を，授業でどのようにいかしていくか。

【自評】

- ・新学習指導要領の議論する，多面的・多角的とはどういうことだろうと考えた。
- ・今日は，問題解決的授業をした。
話し合いたいことを事前授業で考えてきた。（今までに3回課題作りをしてきた。）
- ・「弱いってどういうこと。」（5人）→自我関与→ほんとうに強いてどういうこと。につなげた。
- ・心情円盤，話し合い，ボックス，ワークシート
いろいろを工夫したが，どうだったか？
- ・子ども達からのアンケート
「いっぱい考えると楽しい」「難しい」「心がきれいになって」「弱いところを直していく」
「みんないい考えがあるから楽しい」

【グループ協議】

- ・（参加者A）よかった。問いの始めの「弱い」と後の「弱い」→前半は心情面，後半は喧嘩などのことに，2つの弱さが違うのではないかと？ 資料自体がもっている強さをどのくらい分かっていたのか？
- ・（参加者B）強さと弱さについてよく考えていたが，資料の強さと弱さの捉えは少し弱かったのではないかと。授業の事前に何をしたのか教えてほしい。
- ・（佐藤）途中で指導要領が変更になったので，ねじれが生じた。弱さを認めることが強さだと思って授業した。
- ・（参加者C）「弱いて悪いこと」の発問に「ダメなこと」とすべての子ども達が答えていた。切り替えしが欲しかった。
- ・（参加者D）円になって話し合いをするのは，みんなの顔を見て話ができるので，とらえやすい。しかし，価値観に迫っていくには無理がある。黒板があるのはなんのため。子ども主体なのはどうか？（場慣れしているとは思いますが）価値がブレたと思う。主体的に話しており，児童はそれぞれ価値にせまっていたと思うが，少しずつ価値の捉えがずれてしまったように思う。一つの方向性に行くという面ではどうなのか。
- ・（参加者E）雰囲気よかったが，「弱さ」「強さ」は資料とずれていた。先生があまり入らなかったが，何を考えながら子どもの意見を聞いていたのか？
- ・（佐藤）将来生きていくために役立つという新しいやり方で，コミュニティボールを持つと安心して話すことができる。

- ・(参加者E) 子どもが主体的でいいが、方向性のある程度示したほうがいいと思う。1つのテーマに絞っていった方がいいのではないかと。(例えば野菜の事とか) 子ども達は、よく聞き取っていたので、テーマを1つに絞っていったほうがいいように思う。
- ・(参加者F) これからの道徳は、これを目指していく。担任がルールを敷いてはダメ。問いをたてていくことはいい。コミュニティボールがあると、みんなこっちをみて話を聞く。対話の中から本音が出てくる、主体的になっていく。3年生として発言の中身がいい。今日の授業だと、資料を読ませ、前の2つは子ども達が問いをたて、「本来の意味の強さってなに？」と最後は先生の問いでまとめている。ねらいとする価値にむかっていくもの大切。具体的なことにテーマをしぼっていてもいい。「つよしくんに何て声をかける。」の発問でまとめたことで、自分事から資料に戻ってしまったのがもったいない。
- ・(参加者G) 自分の子どもの授業参観で探究の対話(p4c)を見たときは何だと思ったけど、今日の授業をみて道徳で取り入れてやってみたいと思った。論点が少しずれていると感じたところはあった。授業で使ったボックスは底が見えない、見える強さ・見えない強さがあるように感じ面白かった。これからの変容を見ていきたい。ファシリテーターを子ども達がすることもあるのか？
- ・(嶋津) 4年生で授業をしたときに「〇〇さんに質問ですが、本当に言えるのですか？」という子どもたちで話し合いを進めるような場面があった。子ども達でできるように考えているところ、増えていくといい。

【指導助言】宮城県大河原教育事務所 主幹指導主事 斎藤 友弘 様

- ・5回の研究授業を行い、1回ごと成果と課題をまとめてきたことが今日の姿だと思う。

(視点1)

- 事前読み
 - ・子どもが主体的に関わる(自分の考えを持つ、自由に読む)。時間的にもいい。授業でもう1回確認したこともいい(子どもだけで読むと温度差がある)。
 - ・事前に「問い」を考えることは、考えようとする意欲がでてくる。問いのたて方に慣れてきている。今後、議論できるかどうか、相応しいかどうかを、子どもたちに理解させていく必要がある。
- 書く活動
 - ・子どもたちが自分の考えを持つ以外にも、最初と最後に書かせることで変容をみとるということにつながる。
 - ・発表していない子も考えていることが分かる。(書くことで自分でも認識できている)
 - ・途中で書くことも有り。
 - ・書くことを、これからも大切にしてほしい。
- 対話
 - ・これからの道徳で目指していくこと。
 - ・これを通して、これからの道徳のあるべき姿・方向性を模索していく。
 - ・形ではない。
 - ・探究の対話(p4c)は、友達の意見をちゃんと聞くことができる。比べながら変わってきたな・・
 - ・他者との対話のあとで、ワークシートに書くことで自分との対話で自分をみつめることができている。流れがいい提案をいただいた。
 - ・切り返しをして深めていくなどは、これから工夫していけばよい。子どもの考えがふかめられたかどうかが大変。「これからの道徳はこれだ。」提案として、さらに深めていく。

(視点2)

「こころのあしあと」(ワークシート)はよい取組。変容を見るにはよい方法。

半年ごとに子ども達の変容を見ることで、心の成長を確かめることができる。

自己評価はすべての教科で必要

帰り道で今日の授業の話をするかも、友達同士でこのような会話ができるということが素晴らしい。
自評から子どもたちの姿が分かる、学級づくりがしっかりしている。これまでの実践の成果だと思う。